



ほけんだより

10月号



2025年10月2日 発行

社会福祉法人 尚徳福祉会

保育園与那原ベアーズ2

看護師

夏の暑さがまだ残りますが、朝・夕は過ごしやすくなってくる時期ですね。気温の変化で体調を崩さないように気を付けましょう。また、秋と言えばスポーツの秋、読書の秋、芸術の秋、食欲の秋・・・。
様々なことにチャレンジし、栄養豊富な旬の物を色々食べて、心身ともに健康に過ごしましょう。

《 9月の感染症情報 》

手足口病 … 3名

お知らせ

10月～12月に各クラス、個人面談が予定されています。個人面談の際、親子健康手帳を忘れずにお持ちください。保育園の用紙に、入園後に受けた町の乳幼児健診や予防接種などの追加記入をお願いすることがあります。よろしくお願いします。

予防接種

保育園は、集団生活になります。感染症を予防する有効な方法に、予防接種があります。定期接種、任意接種がありますが、どちらも必要な予防接種です。

「すべての子どもたちは、予防接種を受け、自分の体を感染症から守る権利があります。子どもたちが感染症に脅かされず健やかに育って行けるように、予防接種を受けることは大切です。」とされています。

それぞれ適切な接種時期がありますので、かかりつけ医と相談しながら、計画的に接種しましょう。接種した後は、接種したことと接種したワクチン名を担任や職員へ伝える、またはれんらくのーとへの記入をお願いいたします。



インフルエンザ

予防

- ・日頃からの十分な休養とバランスの取れた栄養の摂取
- ・外出時の不織布製マスクの着用、外出から戻った際の手洗い
- ・流行前のワクチン接種 などでです。
(現行のインフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありませんが、インフルエンザの発病を予防することや発病後の重症化や死亡を予防することに対して、一定の効果があるとされています)

症状・特徴

- ・急激で高度の発熱、頭痛、筋肉痛、倦怠感、食欲不振、関節痛、筋肉痛などの全身症状
- ・咽頭痛、鼻汁、咳などの呼吸器症状。
(通常、1週間程度で回復しますが、気管支炎、肺炎、中耳炎、熱性けいれん、急性脳症等の合併症が起こることもあります。唾液・痰・鼻汁からも感染します)

治療法

- ・安静にして休養をとることなどの対症療法
- ・抗インフルエンザウイルス薬の投与。
(発症早期に使用した場合には、症状の早期回復がみこめます)

自宅では、加湿し脱水症状が出ないように、水分補給には十分注意しましょう。感染力が強いので、発症した後5日を経過し、かつ熱が引いてからも3日間は登園を控え、しっかりと自宅療養をしましょう。

回復後は登園届(保護者記入)の提出が必要になります。玄関ホールに「登園届」を準備しています、または保育園のしおりからコピーし記入提出をお願いします。(かかりつけ医や薬局からの熱型が記入できる用紙の提出でも大丈夫です。)

園でのお薬の取扱について



園ではお薬はお預かりできません。風邪などの急性の病気については、各ご家庭で保護者の方が責任をもって飲ませてください。病院で薬が処方される際には、1日2回(朝・夕)か1日3回(朝・夕・寝る前)での処方が可能か医師へご相談ください。

慢性疾患については、医師の指示に従い与薬することもあります。その場合「与薬に関する主治医意見書(医師記入)」と「与薬依頼書(保護者記入)」の提出が必要となります。(保育園での与薬は、医療機関で処方された日数分のみ対応いたします。飲み忘れなどで、余ったお薬の対応は致しかねます。薬局からのお薬の説明書の確認することもあります。)

- ・「与薬に関する主治医依頼書」「与薬依頼書」は玄関ホールにあります(または保育園のしおりに)必要時に主治医へ記入依頼をお願いします。
- ・園での投薬が必要な場合は職員へご相談ください。
- ・お薬は必ず職員へ直接、手渡しして下さい。